

いしかりのチョウザメ(せいぶつへん)
石狩のチョウザメ (生物編)

こうこつぎょこう / なんしつ あこう / ちく
 硬骨魚綱 / 軟質亜綱 / チョウザメ目 / チョウザメ科およびヘラチョウザメ科

■**チョウザメとは**

チョウザメは、淡水域～海域に生息する大型の魚類で、全部で27種いるとされています。サメの仲間（軟骨魚綱）ではありません。



北半球の温帯～寒帯に分布しており、特に北アメリカ、ロシアの沿岸や河川・湖沼に多く見られます。一生淡水域で暮らす種と河川と海とを行き来する種とがありますが、後者も産卵の時は河川に遡上します。卵の塩漬けキャビアは世界三大珍味のひとつとされています。非常に長寿で、大型の種で大きいものは体長8m、体重2tにもなります。最高齢は153歳という記録もあります。

■**石狩のチョウザメ**

チョウザメは、日本近海では北海道や東北の沿岸で見られることがあり、河川ではかつては石狩川、天塩川、釧路川、十勝川に遡上していました。しかし大正時代から昭和初期にかけて急激に減少し、今では見られなくなりました。

かつて北海道にいたチョウザメは、ミカドチョウザメ (*Acipenser mikadoi*) とダウリアアチョウザメ (*Huso dauricus*) の2種と考えられています。ごく稀に今でも石狩（石狩川河口周辺、石狩湾沿岸）で捕獲・混獲されることがあり、記録や標本が残っている事例が近年では5件ありますが、養殖種ベステル（オオチョウザメとコチョウザメを交配したもの）の1件を除き、いずれもダウリアアチョウザメです（表）。

■**チョウザメの現状**

現在、日本ではチョウザメは事実上絶滅したとされています（環境省と北海道のレッドリストには絶滅種として記載されている）。昭和初期に激減した理由は明らかではありませんが、河畔林の減少など河川環境の悪化が原因ではないか、とも言われています。また、世界的にも環境悪化や乱獲などにより個体数が激減しており、27種中23種がIUCN（国際自然保護連合）の絶滅危惧種に指定されています。

(志賀健司)

□ 捕獲年□	水域□	体長 (m) □	種
□ 昭和44 (1969) 年□	石狩川河口□	1.9□	ダウリアアチョウザメ
□ 昭和63 (1988) 年□	石狩川河口□	不明□	ベステル (養殖種)
□ 平成5 (1993) 年□	石狩川河口□	1.4□	ダウリアアチョウザメ
□ 平成16 (2004) 年□	石狩川河口□	2.3□	ダウリアアチョウザメ
□ 平成17 (2005) 年□	石狩湾沿岸□	1.6□	ダウリアアチョウザメ

表：石狩で近年捕獲・混獲されたチョウザメ

- (1) 阿部宗明 (1987) 原色魚類大圖鑑. 北隆館.
- (2) 荒俣 宏 (1989) 世界大博物図鑑 第2巻 魚類. 平凡社.
- (3) ハニスター, K. E. (1987) 動物大百科 第13巻 魚類. 平凡社.
- (4) 河村 博 (2003) 北海道の在来種チョウザメの記録と研究紹介. 第1回在来種チョウザメの復活に関するシンポジウム報告書, 在来種チョウザメの復活に関するシンポジウム実行委員会.
- (5) 尾本直孝・前林 衛 (2000) 北海道近海のチョウザメに関する研究. 研究報告770, 北海道電力株式会社総合研究所.
- (6) Omoto, N., Maebayashi, M., Hara, A., Adachi, S., Yamauchi, K. (2004) Gonadal maturity in wild sturgeons, *Huso dauricus*, *Acipenser mikadoi* and *A. schrenckii* caught near Hokkaido, Japan. Environ. Biol. Fish. 70, 381-391.
- (7) 柳井清治 (2003) 森林と水生生物 (チョウザメ類のエサ環境). 第1回在来種チョウザメの復活に関するシンポジウム報告書, 在来種チョウザメの復活に関するシンポジウム実行委員会.
- (8) 柳井清治 (2005a) 絶滅したチョウザメの生態と再生の可能性 1. 自然観察(74), 9.
- (9) 柳井清治 (2005b) 絶滅したチョウザメの生態と再生の可能性 2. 自然観察(76), 4.